

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : ライフデザイン学部 生活支援学科

評定の根拠は、原則として以下の資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 ① 評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 A) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 B) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 C) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 D) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 E) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 F) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 G) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 H) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 I) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 J) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 K) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 L) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 M) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 N) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 O) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 P) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 Q) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 R) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 S) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 T) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 U) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 V) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 W) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 X) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 Y) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。
 Z) 資料・情報・資料・情報に基づき評価委員会が評価の中心に於ける評価の過程について、以下のとおりとする。

(2) 教育研究組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	掲載資料名	現状説明	評定	改善方法	改善時期
1) 大学の学部・学科・研究科・専攻及び附属機関・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照して適切であるかどうか	教育研究組織の編成	10 学部の目的を実現するための、教育研究組織の編成原案を明確にしているか。	・ライフデザイン学部履修要項 ・東洋大学ホームページ http://www.toyokai.ac.jp/nyushi/learning/graduate/10/	学部の目的、目的である「OOL(生活の質)の向上をサポートできる高い知識と高い専門性を持った人材の育成を中心に、教育目標、そして、教育方針を実現するために、学部ホームページにおける教育研究の推進を図っている。 2009年度より、生活支援学専攻「生活支援学専攻」および「子ども支援学専攻」の専攻体制とし、教育研究体制の充実を図った。	A		
	理念・目的の適合性	11 教育研究組織は、学部の目的を実現する上で適切かつ有効に機能する組織となっているか。	・ライフデザイン学部履修要項 ・教育研究上の目的 ・東洋大学ホームページ http://www.toyokai.ac.jp/nyushi/learning/graduate/11/	「学部の目的を実現するために2学科専攻体制とし、それぞれの資格取得機関連して、資格を要するべき組織としている。	A		
	学部の進展や社会的な要請との適合性	12 学部の進展や社会的な要請を考慮した教育研究組織となっているか。	・ライフデザイン学部履修要項 ・教育研究上の目的 ・東洋大学ホームページ http://www.toyokai.ac.jp/nyushi/learning/graduate/12/	・多様なニーズを有する社会や人々の支援に必要とされる社会福祉系専門職・保育系専門職の人材育成を統合的に行っている。	A		
2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。		13 教育研究組織の適切性を、定期的に検証しているか。	・ライフデザイン学部各種委員会規程 ・各専攻委員会規程 ・専攻協議会規程	「学部内に学科・専攻会議、各種委員会を設け、協賛的に会議を開催し、検証している。	A		

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	掲載資料名	現状説明	評定	改善方法	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編成方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会規程 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	「東洋大学教員資格審査基準」の他、学部内で教員資格審査内規を定立し、教授会において議決の承認を得ている。	A		
	教員の組織的な連携体制の有効性及び教員像の所在の明確化	15 組織的な連携を推進するために、教員間の連携体制がとれているか。	・ライフデザイン学部規程 ・ライフデザイン学部内部委員会組織案	「各学科・専攻から学部内委員会を設け、会議に参加している。各委員会において、学部や各学科(専攻)における教育に関する問題について議論・調整を行っている。また、学部教員会議から学部的な問題などについて、学部長からの連絡体制がとれている。	A		
	教員像の明確化	16 学部の目的を実現するための、教員組織の編成方針を明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会規程 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	「明確にしている。教育課程の編成方針に合わせて、高度な知識を有する社会福祉系・保育系専門職の育成のために必要な専門性を有する教員を配属し、教員組織を構成している。	B		
2) 学部・研究科等の教員組織に照して教員組織を構築しているか	教員像の明確化	17 学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制内職人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	・議定書 ・教員組織 ・契約制内職人教員	「学部の目的と性質上、専任教員が中心となって教育研究体制を構築しており、任期制教員(助教)は実務担当を主に担い、また非常勤講師は科目と専攻とに兼任しているが、契約制内職人教員に関する方針は特に定めていない。	B		
	編成方針に沿った教員組織の整備	18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員数)を充足しているか。	「大学基礎データ」表19	「生活支援学専攻専任教員は24名であり、教員補給を充足している。	A		
	編成方針に沿った教員組織の整備	19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	「大学基礎データ」表19	「生活支援学専攻専任教員の13名が教授であり、13/24であるため、半数以上は教授となっている。	A		
3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	編成方針に沿った教員組織の整備	20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	「大学基礎データ」表A	・～30歳：0.0%(0) ・31～40歳：0.0%(0) ・41～50歳：34.9%(20) ・51～60歳：28.7%(23) ・61歳～：17.2%(10) であるため、若手、中世代が揃っている。	B		
	教員組織の編成方針に照して教員組織が構築されているか。	21 教員組織の編成方針に照して教員組織が構築されているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会規程 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	「生活支援学専攻では、教育課程の編成方針に合わせて、高度な知識を持った専門職職員の育成のために必要な専門性を有する教員を配属し、教員組織を構築している。特に、専攻を1つ～2つ、社会福祉系・保育系専門職の養成・教育を実施している。 「子ども支援学専攻」では、大学設置基準(文部科学省)、児童福祉法(関係機関)に「保育士養成」における必修科目の体系的専任教員配置(保育士養成)及び情報教育の推進策(児童発達支援)を推進するために「教員の適任」に関する科目の専任教員配置(文部科学省)一策で教員組織が構築されている。	A		
	授業科目と担当教員の適性を判断する仕組みの整備	22 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の適性を判断しているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会規程 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	専任教員、非常勤講師を問わず、新到に科目を担当する場合に、東洋大学ライフデザイン学部教員資格審査委員会に科目担当を割り決定している。	A		
4) 教員の質の向上を確保する方策を講じているか	教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	23 教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会規程 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	「東洋大学ライフデザイン学部教員資格審査基準細則」を定め、教員資格審査委員会、学部長会議及び教授会を通して、学部の専任教員に周知している。	A		
	授業科目と担当教員の適性を判断する仕組みの整備	24 教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	・教員採用の基本方針 ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会規程 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準	教員の採用、昇格は、規程に従って適切に行われている。	A		
	教員の質の向上を確保する方策を講じているか	25 フラカド/アドバンスト/プロフェッショナルの実現状況と有効性	25 研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の質の向上に向けた取り組みをしているか。	・ライフデザイン学部プロジェクト研究 ・ライフデザイン学部教授会資料	「ライフデザイン学部として、教員の研究心を向上させる狙いから学部内で予算を確保し、「プロジェクト研究」による体制を構築している。専任教員に対して「専攻を超えた専攻教員による協力を促すこと」で質の向上に寄与している。	A	
教員の質の向上を確保する方策を講じているか	26 教員の教育研究活動の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	26 教員の教育研究活動の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	「授業評価アンケート(1月・1月)	「学部独自の活動としては、毎学期末に実施している授業評価アンケート(他)・他学部との活動に関する情報交換、教育活動に関する講演会を実施するなど、継続的な取り組みを行っている。教員評価制度は取り組みを行っている。	C	特に予定はない。	

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方案	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を体系的に構成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	「授業時間割表」	A		
	選定性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の選定性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	「ライフデザイン学部履修要項P33」 「子ども支援学専攻教育課程表P39」	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	「ライフデザイン学部履修要項P33・37・39・43」	A		
	カリキュラム・ポリシーに照らし、学生に期待する学習成果の達成につながる教育課程となっているか。	40	「子ども支援学専攻では、介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士・児童福祉士の国家試験受験に必要な科目を中心に、職業科目を体系的に配置する」というカリキュラム・ポリシーに基づき、主要な授業科目はすべて開講している。 「専攻士業後・幼稚園教諭・社会福祉士試験受験を確保する上で必要な授業科目を中心に、体系的に教育課程を構成しており、主要な授業科目はすべて開講している。」	「生活支援学専攻では、一般的教養科目に加え、介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士の国家試験受験に必要な科目を中心に、職業科目を体系的に配置する」というカリキュラム・ポリシーに基づき、主要な授業科目はすべて開講している。 「専攻士業後・幼稚園教諭・社会福祉士試験受験を確保する上で必要な授業科目を中心に、体系的に教育課程を構成しており、主要な授業科目はすべて開講している。」	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審審定における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	「ライフデザイン学部履修要項」 「学長教育課程表P33・39」 「臨床科目シラバス」	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	「ライフデザイン学部履修要項」 「各専攻については「履習ⅠA」、「履習ⅠB」のシラバス」	A		

「教育方法」							
評価項目	評価の視点	判断基準および特徴のポイント	掲載資料名	現状説明	評定	改善方法	改善時期
1) 教育方法および学習指導要領に適合しているか	教育目標の達成に向けた修学活動(講義・演習・実習)の有効	43 教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実習、実務)を適切に決定しているか。	ライフデザイン学部履修要項教育課程表 P33-39	・双方向型の授業が望ましく、業績的・量的形成が求められる分野・領域については演習科目を、質的・量的に必要な領域・分野については演習科目を、演習、実習としている。	A		
	修学目標と上位課程との関係	44 単位の実質性を高めるため、1年間の履修登録科目の上限を単位数未満に設定しているか(履修年次、編入学生等も含む)。	ライフデザイン学部履修要項教育課程表 P14	・セメスター制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間48単位)に定めている。 ・履修登録システムにより履修の管理が向上し、4単位を併分に履修することができる。履修要件の厳格化による。	A		
	学生主体的参加を促す授業方法	45 学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	ライフデザイン学部履修要項教育課程表 P33-39 模範演習ハンドブック 社会福祉士・介護福祉士・社会福祉士専門係法令通知書	・学生が主体的な学習態度を身に付けられるように、1年次より4年次まで、少人数によるゼミナールを必修としている。 ・履修科目の本数と実質的授業時数は、200.0となっている。 ・修士等実務養成科目においては、履修法則に則り、50名を上限とする少人数を定めている。 ・学生がピア学習(10名)で自由に練習できる環境づくりに行っている。	A		
	カリキュラム・ポリシーに照し、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	46	ライフデザイン学部履修要項 P38-43 学習(履修) 履修要項表 P33-39 学習(専攻) カリキュラム・ポリシー http://www.tydas.ac.jp/tydash/learning/undergraduate.html	・生活支援専攻の教育方法は、介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士関連科目を基幹的に配置する一方でカリキュラム・ポリシーに照し、実習・演習科目を中心に、学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。 ・学生生活支援専攻の教育方法は、カリキュラム・ポリシーに照し、保育士・幼稚園教諭養成課程科目および社会福祉士養成科目を中心としたさまざまな専門性の修得につながるものとなっている。	A		
2) シラバスに基づいて教が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47 シラバスに、講義の目的・内容・到達目標(学習成果)、履修上のシラバス(各単位の授業内容)を、具体的に記載しているか。	ライフデザイン学部履修要項 ・ToyNet-G	・各教員がシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して業績を、行っている。また、専攻長がシラバスチェックをとり、不足があれば、担当教員が改善・修正を行っている。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48 授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	ライフデザイン学部シラバス 「授業評価アンケート結果(全体集計)」 「学生との意見交換会記録」	・「授業評価アンケート」における教員は授業の内容がほぼ正確に示した(約)の取組は、肯定的な評価が90%を超えており、授業内容・方法とシラバスは整合している。	A		
	期待した成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49 シラバスの「成績評価の方法・基準」に、履修の方法と期待する成績(期待する割合)や、成績評価基準を明示しているか。	東京大学学園 シラバス(依頼時の文書) ライフデザイン学部履修要項シラバス ToyNet-G	・シラバス作成時に教員長名の公文書と詳細なマニュアルを添付して業績が行っており、そのうち成績評価の方法・基準の明示もしている。不足があれば、担当教員が改善・修正を依頼するなど詳細な取組も行われている。履修の方法による成績の明示も明示しているものもあれば、総合評価として示している場合もあるが、成績評価の基準は明示されている。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50 各授業科目の単位数は、大学設置基準に即して設定されているか。	ライフデザイン学部履修要項教育課程表	・各授業科目の単位数は、大学設置基準に照し、講義科目(半期15単位)で単位認定科目(半期15単位)で単位認定科目(半期15単位)を原則として、適切に設定している。	A		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	51 各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に即して設定されているか。	「朝霞キャンパス(学年版)」	・春学期・秋学期各半期15回の授業日数および定期試験1回を確保している。	A		
	既得単位認定の適切性	52 海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校(専門学校)単位認定の認定、TOEIC等、非正規入学者の学習の単位認定を、適切に行われているか(編入学生も含む)。	「学部単位認定の申し合わせ」 ライフデザイン学部履修要項	・単位認定にあたっては、教務管理委員会において原案を作成し、教務課にて審議して決定している。	A		
	教育内容・方法等の改善を図ることと目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	53 教育内容・方法等の改善を図ることと目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	ライフデザイン学部FD委員会内情 東京大学FDニュース ライフデザイン学部FD委員会委員名簿	・学部FD委員会が定期的に委員会を開催し、学部の切について検討している。学部のFD委員会は、授業評価アンケートの結果、後学期に学部学生との意見交換会を開催している。また、FD協議会や他学部のFD委員会と連携し、授業改善に取り組んでいる。	A		
	教育内容・方法等の改善を図ることと目的とした研修・研究が定時的に実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	54 教育内容・方法等の改善を図ることと目的とした研修・研究が定時的に実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	ライフデザイン学部FD研修会について ライフデザイン学部FD活動報告書 FDニュース、活動報告書	・学部FD委員会が、毎学期履修評価アンケートをとり、またFD研修会やFD交流会を開催し授業改善に取り組むとともに、当該年度の活動を報告書により、全FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」							
評価項目	評価の視点	判断基準および特徴のポイント	掲載資料名	現状説明	評定	改善方法	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上げられているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその活用	55 各科目における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発・活用し、教育内容・方法等の改善に活かしているか。	・授業評価アンケート 授業評価アンケート結果 授業評価アンケート結果に対する改善方法の提出について 学生との意見交換会記録	・毎年学期初めに授業評価アンケートを実施して学生の学習成果の測定を行っている。また、授業でフィードバックを使用し、学生の理解度を測定する場合もある。各教員には授業評価アンケートの結果に対する改善方法の提出が求められる。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56 学生の自己評価や、学位、学位の教育効果や就職先の評価、卒業生アンケートなどを実施しているか。	入学生アンケート 卒業生アンケート	・入学時に、全入学生に、入学動機、学習目標および意欲等に関するアンケート調査を実施している。 ・卒業時に、全卒業生に、授業だけでなく学生生活全般についてのアンケート調査を実施している。	A		
	学位授与基準、学位授与と卒業生の適切性	57 卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知り得る状態にしているか。	ライフデザイン学部履修要項 P14	・「履修要項」に卒業要件を明示するとともに、入学生ガイダンスおよび個別のガイダンスに照し、周知している。	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか		58 デプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、デプロマ・ポリシーに即して学位授与を行っているか。	学位、デプロマ・ポリシー http://www.tydas.ac.jp/tydash/learning/undergraduate.html 学位、卒業要項 P34-40	・学位、デプロマ・ポリシーは、生活支援専攻は、社会福祉士の専門職として社会貢献できる人材の育成と職業教育であり、学生生活支援専攻は、子ども支援に特化する知識と技能を修得し、保育士、幼稚園教諭として従事する人材の育成と職業教育であることに基づき、卒業要件とデプロマ・ポリシーは整合している。	A		

教育の質保証、等質・等価を求めている。教育・研究・社会サービス(産学連携および地域の中心)に対する取組の推進について、以下のとおりとする。
 1) 教育・研究・社会サービス(産学連携および地域の中心)に対する取組の推進について、以下のとおりとする。
 2) 教育・研究・社会サービス(産学連携および地域の中心)に対する取組の推進について、以下のとおりとする。
 3) 教育・研究・社会サービス(産学連携および地域の中心)に対する取組の推進について、以下のとおりとする。
 4) 教育・研究・社会サービス(産学連携および地域の中心)に対する取組の推進について、以下のとおりとする。
 5) 教育・研究・社会サービス(産学連携および地域の中心)に対する取組の推進について、以下のとおりとする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方法	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明しているか	求める学生像の明示	58	アドミッション・ポリシーを策定しているか。	・東京大学ホームページ 学務課長のアドミッション・ポリシー http://www.tyda.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate.html	・生活支援学専攻では、社会福祉の専門性を旨とし、社会福祉士となることに加え、介護福祉、精神保健福祉や学卒後職など、幅広い分野での社会貢献を目指す学生を養成するアドミッション・ポリシーを定めている。 ・子ども支援学専攻では、保育士資格、幼稚園教諭一種免許、社会福祉士資格取得を目指す学生を育成するアドミッション・ポリシーを定めている。また、対人専門職に必要な知識・技術・人間性について、本専攻の特性を明確にしている。	A	
		60	アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の専攻、大専攻を明らかにしているか。	・東京大学ホームページ 学務課長のアドミッション・ポリシー http://www.tyda.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate.html	・生活支援学専攻では福祉分野に関心を持ち、就職に備える学生を育成する学生を、子ども支援学専攻では保育職の中心から、その資格の専門性が発揮できるような教育を期待する人材を育てている。並進学習の観点から、専門的学習/産学連携、技術の習得や振り返りが必要であることを記している。	A	
		61	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識の専攻・大専攻の内訳を明示しているか。	・東京大学ホームページ 学務課長のアドミッション・ポリシー http://www.tyda.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate.html	・生活支援学専攻、子ども支援学専攻のアドミッション・ポリシーは、大専攻ホームページに掲載している。また、卒業要件について「入試要項書」「オープンキャンパス」「学びライブ」といった大学説明会時に、より詳しく特徴を説明している。	A	
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学選考を行っているか	学生募集方法、入学選考方法の適切性	62	受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	入試ナビ2014 東京大学入試サイト http://www.tyda.ac.jp/nyushi/admission/	・各方式とも、募集人員、選考方法を、「入試ナビ」および東京大学入試サイトにて受験生に明示している。	A	
		63	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の選考に際し、学生募集や、試験科目や選考方法の指定をしているか。	入試ナビ2014 東京大学入試サイト http://www.tyda.ac.jp/nyushi/admission/	・各方式とも、募集人員、選考方法を、「入試ナビ」および東京大学入試サイトにて受験生に明示している。	A	
		64	学生募集、入学選考を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	全学入試委員会情報	・全学入試委員会、学部教授会、学部入試委員会が連携して、学生募集、選考を実施している。	A	
3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員(専攻・大専攻)を超過していないか	入学選考における透明性を確保するための措置の適切性	65	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式での募集人員の2倍以上の学生が入学していないか。	・大学基礎データ表4	・生活支援学専攻は定員枠100名のうち平成25年度入学定員は118名であり、各試験方法での2倍以上の学生確保は行われていないが、一般入試の枠内である。 ・子ども支援学専攻は定員枠106名のうち、平成25年度入学定員は120名であり、各試験方法での2倍以上の学生確保は行われていない。	A	
		66	アドミッション・ポリシーに基づき、入試方式や募集人員、選考方法を策定しているか。	・アドミッション・ポリシー http://www.tyda.ac.jp/nyushi/learning/undergraduate.html ・入試要項書 2014 ・専攻会議議事録	・生活支援学、子ども支援学専攻の入試方式は、社会事業者を擁み、履修のために必要な基礎学力を備えて受験科目を設定している。また、入試段階にのみならず、履修段階で履修を勧奨し、専攻内で推薦入試枠の拡大視野に入れ、継続募集を実施している。	A	
		67	学科における専攻5年の入学定員に対する入学定員比率(専攻5年)は20%未満となっているか。	・大学基礎データ表4	生活支援学専攻の入学定員は、平成21年度229名(生活支援学130名・子ども支援学99名)、平成22年度229名(生活支援学129名・子ども支援学100名)、平成23年度217名(生活支援学118名・子ども支援学99名)、平成24年度218名(生活支援学120名・子ども支援学98名)、平成25年度218名(生活支援学118名・子ども支援学100名)入学定員数に対する入学定員比率は、20以下である。	A	
4) 学生募集および入学選考は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率は20%未満となっているか。	・大学基礎データ表4	生活支援学専攻の平成25年9月1日現在の在籍学生数は214名であり、収容定員に対する在籍学生比率は1.0925であり、20以内である。	A	
		69	学科における編入入学定員に対する在籍学生数比率は70%以上の範囲となっているか。また、編入入学(若手)を募集している場合は、10%以上の学生を入学させていないか。	・大学基礎データ表4	・編入入学は実施していない。	A	
		70	定員に達する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	・学部入試委員会情報 ・学部会議議事録 ・専攻会議議事録	・学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学定員数定定の分析を行い、報告している。また専攻会議においても毎年検討している。	A	
5) 学生募集および入学選考は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているか	定員に達する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	ライフデザイン学部入試委員会情報 ライフデザイン学部教授会議議事録 専攻会議議事録	・毎年度、前年度の入学定員数定定の分析を行い、その際に専攻のアドミッション・ポリシーの妥当性を検証している。	A	
		72	学生募集および入学選考の適切性を定期的に検証する組織を構築して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・学部入試委員会情報 ライフデザイン学部入試委員会情報 ライフデザイン学部教授会議議事録 生活支援学専攻会議議事録	・全学入試委員会および学部入試委員会、教授会において、毎年度、各入試方式の募集人員、選考方法の検証・検討を行っている。	A	

平成25(2013)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 :ライフデザイン学部 健康スポーツ学科

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(1) 理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	※1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」（東洋大学規程） ・ライフデザイン学部履修要覧2013年5ページ「健康スポーツ学科の教育研究上の目的」	健康スポーツ学科は小児から高齢者、またアスリートや障がい者の枠を超え、様々な人々の健康づくりを支援できる人材の育成を目的としている。このことを「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規定」に明記している。	A		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的（教育基本法、学校教育法参照）と整合しているか。	・人材養成に関する目的・学生に修得させるべき能力等の教育目標（東洋大学ホームページ、ライフデザイン学部）	健康スポーツ学科の「身体活動やスポーツに関わる身体機能および社会的・文化的側面に関する教育や研究を実践する」の点で高等教育機関としての大学が追求すべき目的と整合する。	A		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	・東洋大学の「建学の精神」、「大学の理念」 ・人材養成に関する目的・学生に修得させるべき能力等の教育目標（東洋大学ホームページ、東洋大学の建学の理念、ライフデザイン学部目的）	健康スポーツ学科の目的は「すべての人々の健康の維持・増進に関する理論と実践教育・研究」を多面的しかも根本的な人生観・世界観に関わる多様な物の見方・考え方で教育研究を行うことであり、建学の精神や大学の理念と一致しており、そのことを明らかにしている。それを、公表している。	A		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	・教員組織表 ・ライフデザイン学部履修要覧2013年度 ・学部パンフレット（2012年） ・東洋大学ホームページ、ライフデザイン学部のページ	既存の体育学部（学科）あるいはスポーツ・健康科学部（学科）の目的は保健体育教諭育成が大きな目的のように思われる。しかし、本学科は学校体育よりも幼児から高齢者、障がい者のヘルスプロモーションの人材を育成することを目的とした。卒業後は医療機関および福祉施設でのリハビリテーション、地方自治体等の健康対策部門、スポーツクラブなどに就職をしている。資格として、健康スポーツ学科だけでなく生活支援学科の社会福祉士、精神福祉士の受験資格を得ることができ、他学科の人的資源も活用している。また、実習実技の機器・費用も授業において十分である。物的・資金的資源からみて適切である。	A		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	・2013年ライフデザイン学部履修要覧、各学科の目的（5ページ） ・東洋大学ホームページ、ライフデザイン学部のページ	健康スポーツ学科はヘルスプロモーションの幅広い職業人養成、中でも特化した維持期リハビリテーション指導者、スポーツマンから一般人のスポーツ場面におけるphysical skillに関わるトレーナー、健康運動指導士など、高度専門職人養成、幅広い職業人・高度専門職業人養成の基礎となる特定専門的分野（体育）の教育・研究（人の身体機能・構造、身体・スポーツ活動の社会・文化的）、地域貢献として、地域住民への健康づくり教室の開催、自治体の住民サービスへの支援活動を行い、学科の個性・特色を打ち出している。したがって、中教審の「大学の機能別文化論も視野に入れて打ち出している」といえる。	A		

2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年ライフデザイン学部履修要覧 ・学部パンフレット(2012年) ・人材養成に関する目的・学生に修得させるべき能力等の教育目標(東洋大学ホームページ、ライフデザイン学部のページ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザイン学部、各学科の目的を、『履修要覧』に記載して、学生および教職員に配付している。 ・ライフデザイン学部、学科の目的、教育目標は、ホームページに記載している。 	A		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生・卒業生アンケート ・学科長会議資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生・卒業生アンケートを実施し、その結果を検証している。 ・ホームページに各学科のニュースを記載している。 ・学科長会議を中心に、学部・各学科の目的について検討している 	A		
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・『学部パンフレット』 ・ライフデザイン学部ホームページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部パンフレットでは、学部、学科の「人材の養成に関する目的」をデプロマ・ポリシーで目的を、より分かりやすい形で記載している。 ・学部、各学科の目的は、ホームページに記載している。 	A		
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各年度の課程表 ・各年度の履修要覧 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部入試委員会、教育課程委員会、自己点検・評価委員会等での結果を学部学科長会議で検証し、カリキュラム変更を定期的に行っている。 	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準 ・教員資格審査規程改訂案 ・学部長会議資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・「東洋大学教員資格審査基準」の他、学部内で「教員資格審査内規」を定め、教授会を通して学部の全専任教員に周知している。 ・25の助教採用に当たって、教授会審議後の理事長面接で不適切な点が指摘され、このような事態が生じないように、学長を中心に教学サイドで資格審査規程の見直しが行われている。 	B	教員資格審査規程の見直し	
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザイン学部規程 ・ライフデザイン学部学内委員会組織表 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部教務委員会が、学部や各学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。 ・研究教育に係る責任の所在について明確でない。このことについて、第三者委員会等を立ち上げ明確にすることが必要である。 	B		
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋大学教員資格審査基準 ・ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査基準細則 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準 ・教員採用の基本方針 	健康スポーツ学科の主要授業科目に関しては専任の教授・准教授が担当している。実験、実習、実技に関しては補助をする助教がいないために、TA・SAを採用して補助をしている。	B		
		17	学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義要項 ・教員組織表 	健康スポーツ学科では本学科の特色ある教育のために非常勤枠を拡大採用し、キャリア教育・ボランティア・インターンシップ教育を充実させている。	B	助教あるいは専任教員の採用	

2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	※18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	・「大学基礎データ」	ライフデザイン学部の設置基準である、別表1、および別表2の教員数は満たしている。健康スポーツ学科においても、その数は満たしている。	A		
		※19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	・「大学基礎データ」	健康スポーツ学科では、所属教員17名のうち教授は13名であり半数以上が教授である。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・「大学基礎データ」	・～30歳: 3.1%(2) ・31～40歳: 12.5%(8) ・41～50歳: 31.3%(20) ・51～60歳: 37.5%(24) ・61歳～ : 15.6%(10)	A		
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	・教員組織表 ・講義要項	健康スポーツ学科のカリキュラムは身体に関する自然科学科目、身体運動に関わる文化・社会科学科目およびヘルスプロモーションの実際に関わる指導技術に関わる科目である。それらの科目で学科のコアになる科目の専任教員は適切に編成している。	A		
	22	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査基準細則」 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準」・理事長面接について(学部長会議資料)	・専任・非常勤を問わず、新規の科目を担当するには、学部教員資格審査委員会に「科目審査」として諮り審議している。 ・助教採用について科目対応の審査が十分でなかったことが、学長より指摘された。	B	・学科会議において十分な審議が行われるように、資格審査に対してこれまで以上に慎重に行うように改善すべき ・資格審査の規程改正案が出されている	
3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査基準細則」 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準」	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「学部教員資格審査委員会規程」に定め、教授会を通して学部の全専任教員に周知している。	B		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	・「東洋大学教員資格審査基準」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査委員会細則」 ・「ライフデザイン学部教員資格審査基準細則」 ・ライフデザイン学部教員資格審査細則の各種判断基準」	・教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われていると思われる。しかしながら、助教採用に当たって、資格審査が不十分であったことが指摘された。	B	資格審査規程の改正案が審議されている。	
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・平成24年度学部FD活動状況報告会「ライフデザイン学部のFD」 ・学生との懇談会	・各教員の研究業績、教育実績、社会貢献活動等の一覧は、学部設置時に設置認可申請書に記載したが、その後の追加整備については、不十分である。 学部独自のFD活動としては、毎学期末に実施している授業評価アンケート調査を行い、その結果を各教員に戻し、改良点などを報告する。 ・その他FD活動として、昨年度は理工学部とのFD活動に関する情報交換会、今年度は「大学生に対する学習支援」というテーマで講演会を実施するなど、継続的な取り組みを行っている。	A		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。	・ホームページに各教員の教育・研究活動を記載している。 ・授業評価アンケート	・教員の授業評価アンケートを行っているが、教育研究活動等の多様性を踏まえて評価は実施していない。	C	教員評価制度の評価基準の在り方に関する検討委員会を早急に立ち上げ、評価基準を作り、評価制度を確立する。	

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	・学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程 ・ライフデザイン学部履修要覧 ・ホームページ	学科において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」を定めている。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	※28 デイプロマ・ポリシーを設定しているか。	・学科 デイプロマ・ポリシー・ ・ライフデザイン学部履修要覧 ・ホームページ	「生活の質の向上を目指し、身体活動やスポーツ活動時の身体機能および社会・文化的側面に関する教育・研究の実践を理念として、小児から高齢者、障害者の健康の維持増進の支援に寄与できる人材の育成を目的とし、この基本方針に基づく学修者に学位を授与する」としている。	A		
		29 教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合しているか。	・学科 デイプロマ・ポリシー・ ・ライフデザイン学部履修要覧 ・ホームページ	「小児から高齢者、障害者の健康の維持増進の支援に寄与できる人材の育成を教育目標」とし、この「基本方針に基づく学修者に学位を授与する」とし、教育目標とデイプロマ・ポリシーは整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 デイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・ホームページ	健康スポーツ学科のデイプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されている。	A		
2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	※31 カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	・ホームページ	健康スポーツ学科はこれまでの体育系大学とは異なり、現代に生きる人々の健康づくりにつながる健康関連の科目や実技・実習を重視するとともに、身体の構造や機能を自然科学的に論究する科目や健康スポーツ現象を人文・社会科学的視座から学習科目を開講し、理論と実践を有機的に連動させて総合的かつ系統的に教授している	A		
		32 カリキュラム・ポリシーは、教育目標やデイプロマ・ポリシーと整合しているか。	・ホームページ	健康スポーツ学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やデイプロマ・ポリシーと整合している。	A		
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	33 カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	・ホームページ ・ライフデザイン学部履修要覧	健康スポーツ学科はカリキュラム・ポリシーに基づき、コアになる科目を必修科目とし個々の学生の進路希望あるいは専攻希望により選択科目を履修するように、必修・選択の別、単位数の設定が行われている	A		
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34 教職員・学生が、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・ホームページ	デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、毎年度配布する履修要覧およびホームページで公開している。どの程度周知が進んでいるかは不明である。	B	周知の有効性について、新入生・卒業生アンケートに項目を設ける	
	社会への公表方法	35 受験生を含む社会一般が、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・ホームページ	デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36 教育目的、デイプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。	・学科長会議資料	学科会議および学科長会議で定期的に検証し、カリキュラム変更を定期的に行っている。	A		

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	『学部 授業時間割表 2013度』	・主要な授業科目はすべて開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	・健康スポーツ学科教育課程表	・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を適切に設定するとともに、シラバスの「関連科目・関連分野」の枠を用意し、科目によっては、履修に必要な条件等を記載している。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	・ライフデザイン学部履修要覧	・『履修要覧』において、「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	・学科 教育課程表・講義要綱	・教育課程は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	・学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス	学部全体として、「学士力」に対応するために、「知識・理解」の育成については、一般教養科目の人間探求分野・人間と生活理解／社会と自然の理解、文化間コミュニケーション分野等の授業科目が対応している。「汎用的技能」の育成については、専門基礎英語、情報リテラシー、レポート・論文のまとめ方等が対応している。「態度・志向性」については、ライフデザイン学入門、「総合的な学習経験と創造的思考力」については、健康スポーツ学科は3・4年次に配置されている演習科目および卒業論文が対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	・学科 教育課程表・講義要綱	健康スポーツ学科は25年度より、新たに1年次春学期に演習科目(健康スポーツ学基礎演習Ⅰ)を配置し、「健康スポーツ学概論」と合わせて初年次教育・導入教育専門教育を行い、2年次対象に健康スポーツ学基礎演習Ⅱを開講し専門教育の導入を行っている。 ・高大連携については、推薦入試で合格した進学予定者に対して行っている。	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43	教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	・学科 教育目標 ・学科 教育課程表	健康スポーツ学科は講義、演習、実習(実験を含む)、実技を適切に配置している。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	※44	単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	・ライフデザイン学部履修要覧	“セメスター制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45	学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	・学科 教育課程表	・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、1年次より4年次まで、少人数によるゼミナールを必修としている(25年度カリキュラムより1,2年次に基礎演習を配置)。 ・講義科目の人数上限の目安は、200人として、学年が上がる毎に少人数制となるよう配慮を行っている。健康スポーツ学科の実習、実技についても実習室の収容人数および実習用機器についても学生が主体的に授業に参加する工夫をしている。	A		
		46	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	・ライフデザイン学部履修要覧 ・学科 教育課程表	・教育方法は、カリキュラム・ポリシーに従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2)シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	・シラバス依頼時の文章・マニュアル ・ライフデザイン学部講義要綱	・各教員にシラバス作成時に講義の目的・内容・到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)に関する詳細なマニュアルを添付して依頼を行っている。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	・「授業評価アンケート結果(全体集計)」 ・「学生との意見交換会」記録	・「授業評価アンケート」における「教員は授業の計画をはっきり提示した」の設問では、肯定的な回答が80%を超えており、授業内容・方法とシラバスは整合している。	A		

3)成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 東洋大学学則 「シラバス依頼時の文書」 ライフデザイン学部講義要綱 	東洋大学の評価基準に則り、複数の方法により評価を行う場合にはその割合や成績評価基準を明示している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 学科 教育課程表 	<ul style="list-style-type: none"> 各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、講義科目:半期15週で2単位 演習科目:半期15週で2単位 語学・実験・実習科目:半期15週で1単位 卒業論文:4単位 として、適切に設定している。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「朝霞キャンパス学年暦 2013」 	半期15回の授業日数を確保している。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	<ul style="list-style-type: none"> 「学部単位認定の申し合わせ」 	<ul style="list-style-type: none"> 単位の認定にあたっては、「学部単位認定の申し合わせ」に従い、教育課程委員会において原案を作成し、教授会にて審議して決定している。 これまで、健康スポーツ学科では海外での語学研修(英語)に伴う単位認定を行っているが、その他の単位認定対象者はいなかったが、本年度海外留学者が2名いるので、留学後単位認定を行う予定である。 	A		
4)教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	<ul style="list-style-type: none"> ライフデザイン学部FD委員会内規 東洋大学FDニュース ライフデザイン学部FD委員会議事録 	学部FD委員会が、年に1~2回程度、委員会を開催し、学部FDについての研究を行うとともに、学部FD研修会等を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的に実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ライフデザイン学部学部FD研修会について ライフデザイン学部FD活動報告書 FDニュース、活動報告書 	学部FD委員会が、毎年、学部FD研修会を開催するとともに、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上げられているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	・授業評価アンケートについて ・授業評価アンケート結果 ・授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について ・学生との意見交換会記録	・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果に対する改善方策を提出してもらい、冊子化して全教員に配付している。	B	授業アンケートの内容の検討。25年度より全学一致したアンケートないように統一したが、学生の中には単位取得が楽な科目の授業評価を高くする傾向がある。アンケートでは評価しきれない。評価方法を検討することが必要である。	
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	・新入生アンケート ・卒業生アンケート	・卒業時に、全卒業生に、授業だけでなく学生生活全般についてのアンケート調査を実施し、学科ごとの集計をも行い学科の教育効果・就職の評価を行っている。	A	新入生アンケート(全学)と照らし合わせて、学部・学科の教育効果を検討もできるアンケート内容にする。	
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	・ライフデザイン学部履修要覧	・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	・ライフデザイン学部履修要覧	・卒業要件は、おおむねディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	※59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	・学科のアドミッション・ポリシー ・ホームページ ・学部講義要項	健康スポーツ学科は「ライフ(生活)を論究する学問としての健康スポーツ学を学ぶ」場として、身体活動を通じ人間の豊かな生活の創造を健康の面からサポートする人材の受け入れを、その方針としている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	・学科のアドミッション・ポリシー	・健康スポーツ学科は修得しておくべき知識の内容、水準を明確にしている。 ・26年一般入試科目も従来の科目に加え、理科(生物)を選択できるようにし理系科目の必要性も示している。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	・入試ナビ2014 ・ホームページ	健康スポーツ学課のアドミッションポリシーは、大学ホームページで公開している。『ライフデザイン学部』で明示すると共に、「入試説明会」、「オープンキャンパス」、「学びライ」といった大学説明会時に、より詳しく特徴を説明している。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	・入試ナビ2014 ・ホームページ	・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試ナビ2014』、『ホームページ』にて受験生に明示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	・入試ナビ2014 ・ホームページ	・健康スポーツ学科は一般入試95名、センター試験入試10名、推薦入試45名に設定し、入学試験の選抜方法を受験生の多様なニーズに対応するようにしている(平成25年入学試験)。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	・全学入試委員会規程	・全学入試委員会、学部教授会、学科会議、学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施している。	A		
		※65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	・大学基礎データ	健康スポーツ学科は1.19倍であり2倍以上入学していない。	A		
		66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	・学科 アドミッション・ポリシー ・入試ナビ2014	健康スポーツ学科の入試方式は、必要となる基礎学力に焦点化して受験科目を設定している。また、一般入試科目に26年入試より、選択科目として理科(生物学)を加えた。	A		

3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	※67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90~1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・大学基礎データ表4	健康スポーツ学科は年度によって異なるが、1.19の上限を超えないように策定を行っている。	A		
		※68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90~1.25(※実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 ※実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	・大学基礎データ	健康スポーツ学科は1.2以下の範囲にある。	A		
		※69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7~1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	・大学基礎データ	収容定員に対する在籍学生数比率が1.2を超えない人数の編入を行っている。これまで、1学年2名が最大である。			
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	・学部入試委員会議事録 ・教授会議事録	・学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学者数策定の分析を行い、教授会に報告している。また、学科会議においても毎年検討している。	A		
4)学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。	・ライフデザイン学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	・学科会議、学部入試委員会、教授会において毎年度検証を行っている。	A		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	・全学入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部入試委員会議事録 ・ライフデザイン学部教授会議事録	・全学入試委員会および学部入試委員会、教授会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証・検討を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(6) 学生支援

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
2) 学生への修学支援は適切に行われているか	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性	73	原級者、休・退学者のデータを教授会等の会議で教職員に周知し、情報の共有化を図るとともに、理由把握等に努め、適切な指導、支援を行っているか。	・ライフデザイン学部教授会資料	原級、休学、退学に関しては、朝霞事務課が受け付けを行い、演習(ゼミ)担当教員による面接を実施した後に、教授会にて承認・報告を行っている。	B		
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施	74	教員および学生に実態調査を行うなどして、必要な補習・補充教育を適切に提供するとともに、その効果についての検証を行っているか。	・健康スポーツ学科課程表 ・ライフデザイン学部シラバス	・現在までは、学生の学習レベルが、一定の水準で推移しており、高等学校までの教育内容に関する補充授業は行う必要がない。しなしながら、語学のTOEICの得点数が低い学生がおりキャリア支援の面からも語学教育の関する支援を必要とする学生がいる。 ・健康スポーツ学科は自然科学および社会・人文科学の要素があり、比較的高校時代に文系コースで学んできて、物理学、数学、生物学、化学などの能力が低い学生がいるので、基礎的な自然科学の能力を高める支援を必要とする学生もいる。 ・文章作成能力いわゆる「国語力」の低く補習必要とする学生もいる。 ・これらの対策として、学修支援室の設置することが決定している。現在、運営等を検討して、年内にも立ち上げる予定である。	A		
4) 学生の進路支援は適切に行われているか	進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施	75	正課教育において、学生が卒業後、社会的・職業的自立を図るための能力を育成しているか。	・学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス	健康スポーツ学科はインターンシップ、ボランティアを教育課程に取り入れ社会的・職業的自立を図っている。また、必要に応じてゼミ等で現場体験をさせている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(7) 教育研究等環境

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備	76 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じて、講義室の規模、実験・実習室の設備、実習室の座席数などが整備されているか。	・ライフデザイン学部時間割表 ・ライフデザイン学部履修要覧	・おおむね施設・設備は整備されているが、学科の教育課程の関係上、200～300名の規模の教室や、PC教室が十分とはいえない。 ・健康スポーツ学科ではこれまで、総合体育館として設置されていた体育館を使用していたが26年2月完成予定で実験・測定室を備えたライフデザイン学部専用の体育館を建設中である。この建設によって、健康スポーツ学科の演習、実験実習等の施設が充実する。	A		
	ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備	77 TA、SA等の人的支援が行われているか。	・東洋大学教育補助員採用内規 ・平成24年度ライフデザイン学部教育補助員執行計画書	・TA、SAについては、「教育補助員採用内規」に従い、毎年60～80名程度が採用されているが、他キャンパスに比べて大学院生が少ないため、TAの確保が難しいが、院生が積極的にTAを行っている。	A		
	教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保	78 専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給しているか。	・平成24年度教員経費算出基礎資料 ・平成24年度ライフデザイン学部教員経費一覧 ・平成24年ライフデザイン学研究(紀要)	・専任教員1人につき、30万円の研究費が支給されている。 ・ライフデザイン学部の各学科の共同研究を促進するために、ライフデザイン学部プロジェクト研究費に大学から割り当てられる個人研究費の一部を当てているが、予算の奪い合い的状况があり必ずしも当初の目的を果していない。検討の余地がある。しかし、新しい学問分野であるライフデザイン学の進行には必要な研究費である。	B		
		79 専任教員に対する研究室を整備しているか。	・2013年度ライフデザイン学部研究室一覧	・専任教員全員に個人研究室が配分されている。	A		
	80 研究専念時間の設定など、教員の研究機会を保障しているか。	・「平成25年度時間割編成並びに授業運営について」	・時間割編成時に教務部長名で、「専任教員は週3日以上出校し、学部授業を週5コマ以上担当することを原則とします」としており、おおむね、授業日以外の1～2日を研究に充てることができているが、学内業務等の増加のため、完全に保証されているとはいえない。	B			
5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか	研究倫理に関する学内規程の整備状況	81 研究倫理に関する学内規程を整備するとともに、研究倫理に関する研修会等を実施するなど、研究倫理を浸透させるための措置を行っているか	・「東洋大学ライフデザイン学部研究等倫理委員会内規」 ・「東洋大学ライフデザイン学部研究等倫理小委員会内規」	・ライフデザイン学部内では規定を整備し、研究者による人または動物を対象とした調査研究および実験研究について、倫理的ならびに科学的観点から遵守すべき事項を定めている。研修会等の実施等については検討中。	A		
	研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性	82 研究倫理に関する審査機関の設置し、適切に運営しているか。	・「東洋大学ライフデザイン学部研究等倫理委員会内規」 ・「東洋大学ライフデザイン学部研究等倫理小委員会内規」	倫理委員会は必要に応じて委員会を開催し、審査を行っている。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(8) 社会連携・社会貢献

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか	産・学・官等との連携の方針の明示	83 学部の目的を踏まえて、産・学・官等との連携に関する方針を定めているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する高齢者にやさしいまちづくりに関する実施協定書」 子ども大学朝霞関連資料 朝霞市スポーツ審議会資料 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体や地域の社会福祉施設などと積極的な連携を進めている。今年度からは東京都北区と協定を結び「高齢者にやさしいまちづくり」をテーマに研究・調査活動を行っており、本学部からは教員7名が参加している。健康スポーツ学科は特に朝霞市と連携を深め、朝霞健康祭、スポーツ指導員研修会等に教員および学生を派遣して、朝霞市の健康・スポーツ行政と関連を深めている。 	A		
	地域社会・国際社会への協力方針の明示	84 学部の目的・目標を踏まえて、地域社会・国際社会への協力方針を定めているか。	「子育てサブリV～子育て支援による地域貢献と学生教育の融合を目指して～」報告書	<ul style="list-style-type: none"> 社会への貢献を積極的に行う方針に則り、複数の事業を展開している。例えば今年度に6回目を実施している「子育てサブリV」では、保育を学ぶ学生のスキルアップを主な目的としているが、地域の子育てに悩む親と、保育士など地域の保育に携わる専門家と本学部3学科が協力して連携をすることで、地域の子育てにまつわる情報共有に貢献している。 	B		
2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動	85 学部の教育・研究の成果を、社会へのサービス活動に還元しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 「地域子育て支援「子育てサブリV」による学生教育プログラムの実践報告」 「KeepActive2010報告書」 		A		
	学外組織との連携協力による教育研究の推進	86 学部の教育・研究の推進のために、他大学や学外の研究所や組織等との連携・協力を行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 2012年度版ライフデザイン学部履修要覧 東京都北区と学校法人東洋大学との連携協力に関する高齢者にやさしいまちづくりに関する実施協定書 	健康スポーツ学科は朝霞市のスポーツ審議委員、健康センター審議委員として学外組織と連携協力を行い、朝霞市のスポーツ行事、健康推進行事に学生とともに連携協力をしている。また、東京都北区と協定を結び「高齢者にやさしいまちづくり」をテーマに研究・調査活動を行っており、本学部からは教員7名が参加している。	A		
	地域交流・国際交流事業への積極的参加	87 地域交流・国際交流事業に積極的に取り組んでいるか。	<ul style="list-style-type: none"> 「2011年度 韓国現場研修会報告書」 ライフデザイン学部教授会資料 	国際交流については、韓国現場研修会、ニュージーランド短期語学研修など、複数の学部独自の事業を継続的に実施している。本年度は3つの企画に約80名程度の学生が参加する予定である。地域交流で教育に生かすために健康スポーツ学科は「Keep Active」として学生に朝霞市に協賛を求め大学で地域住民の健康づくりのための運動教室を開催している。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。
 S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
 A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。
 B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。
 C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。
 ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(10) 内部質保証

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか	自己点検・評価の実施と結果の公表	88 自己点検・評価を、明文化された規程に基づき、定期的実施しているか。	・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価委員内規 ・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価要領	・平成23年度より自己点検・評価を毎年行い、結果を報告書にまとめるとしている。2007年度に認証評価を当時は完成年度を迎えていなかったため評価はされていないが大学基準協会に提出している。	A		
		89 自己点検・評価の結果を、刊行物としての配布、ホームページへの掲載等によって、当該大学以外の者がその内容を知りうる状態にしているか。	・「大学基準協会点検評価(認証評価)申請用調書 点検評価報告書」 ・大学ホームページ	・2007年度に作成した基準協会への申請用調書は、刊行物として学外にも配布され、大学ホームページでも広く一般に公開されている。	A		
2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか	内部質保証の方針と手続きの明確化	90 自己点検・評価の結果を、学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげるための方針と手続きが明確にされているか。	・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価委員内規 ・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価要領	自己点検・評価委員会の活動方針と手続きについては規定されている。	B		
	内部質保証を掌る組織の整備	91 自己点検・評価結果を、改革・改善や学部の企画・運営につなげるための委員会等が整備されているか。	・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価委員内規 ・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価要領 ・東洋大学ライフデザイン学部FD委員会内規 ・東洋大学ライフデザイン学部FD委員会内規	自己点検・評価委員会が設置されている。	A		
	自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムの確立	92 自己点検・評価の結果を、改革・改善や学部の企画・運営につなげる連携システムが確立されているか。	・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価委員内規 ・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価要領 ・東洋大学ライフデザイン学部FD委員会内規 ・東洋大学ライフデザイン学部FD委員会内規	自己点検・評価の結果を、改革・改善や学部の企画・運営につなげる連携システムとしてFD委員会があり、年々このシステムが推進されている。	A		
3) 内部質保証システムを適切に機能させているか	組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実	93 学部、学科、教員の各レベルで自己点検・評価活動が行われているか。	・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価委員内規 ・東洋大学ライフデザイン学部自己点検・評価要領	教員個人レベルでの自己点検・評価活動を確認はしていない。教員個人の差が大きい。全教員が積極的活動するシステムを確立する必要がある。	B		
	教育研究活動のデータベース化の推進	94 「東洋大学研究者情報データベース」に、学部の専任教員の研究業績が適切に構築されているか。	東洋大学研究者データベース http://ris.toyo.ac.jp/	・専任教員の「東洋大学研究者情報データベース」への更新率は、現在17.6%である。	B		
	学外者の意見の反映	95 学外者の意見を聴取するなど、内部質保証の取り組みの客観性・妥当性を高めるための工夫を行っているか。	・「大学の實力」アンケート調査表	・自己点検・評価において、学外者の意見を積極的に聴取するための工夫は行っていない。	C	自己点検・評価委員会に学外者が参加し、学外者と意見交換をし、学外者の意見を積極的に内部保証システムに機能させる。	
	文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項への対応	96 文部科学省の設置認可・履状報告の際の留意事項、大学基準協会の認証評価の際の指摘事項について、改善のための具体的な取り組みを行っているか。	・「改善報告書」(H22.7大学基準協会提出)	・文部科学省関連の留意事項はなし。 ・「問題解決のための目標と解決までの作業プロセスを的確に企画し開示できる能力」についてどの科目によって担保されるのか明らかでないという指摘および「母国語以外の国際的言語によるコミュニケーション能力」についての指摘、平成25年度改訂のカリキュラムで対応する。	A		

評定の基準は、学科・専攻で定めている目的・目標・方針や「判断基準および判断のポイント」に対する現在の達成度について、以下のとおりとする。

S: 方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標の達成度が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。

A: おおむね、方針に基づいた活動が行われ、理念・目的、教育目標がほぼ達成されている。

B: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成がやや不十分である。

C: 方針に基づいた活動や理念・目的、教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。

ただし、項目番号に※マークがある項目については、明確な基準に則り、達成している／達成していないかのみが問われているため、基準に達している場合は評定「A」を、基準に達していない場合は評定「C」を付すこととする。

(11)その他

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学が推進している3つの柱を基盤とした教育・研究活動を行っているか。	哲学教育	97	教育・研究活動の中で哲学教育を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学教育(東洋大学ホームページ) ・東洋大学125周年記念出版「哲学をしようー考えるヒント30ー ・ライフデザイン学部履修要覧 ・ライフデザイン学部講義要項 	健康スポーツ学科の目的は「すべての人々の健康の維持・増進に関する理論と実践教育・研究」を行うためには多面的しかも根本的な人生観・世界観に関わる多様な物の見方・考え方で教育研究を行うことが必要である。すなわち、健康スポーツ学は自然科学、社会・人文科学から真実を導き出し、その真実を基礎に問題の発見能力や解決能力を高める教育・研究を行っている。このことが、東洋大学が目指す「哲学教育」であり、健康スポーツ学科の教育・研究でもある。	A		
	国際化	98	教育・研究活動の中で国際化を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康スポーツ学科ホームページ ・韓国現場研修会報告ー2012年度報告書ー 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化にとって、必須科目の一つとして語学教育がある。取り分け、世界共通語としての英語修得のために、25年度から1、2年次の英語教育において週2回の授業を必修科目として英語教育の充実を行っている。 ・ライフデザイン学部開設以来、韓国福祉協会と提携により「韓国現場研修」を実施している。韓国の福祉施設での介護体験、ホームステイ、西大門刑務所見学、長安大学学生交流など4泊5日で行っている。欧米諸国との国際化が中心になりやすいが、健康スポーツ学科では近隣の国との国際化をも重要視している。 ・ニュージーランド英語研修、ドイツ研修を行っている。 	S		
	キャリア教育	99	教育・研究活動の中でキャリア教育を推進しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフデザイン学履修要覧(健康スポーツ学科教育課程表) ・2012年度Keep Active報告書 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康スポーツ学科はキャリア教育として、3、4年次に「インターシップ」、「健康産業施設現場実習」の科目を配置している。 ・授業以外に、地域住民を対象に本学科の学生が自主運営(教員は毎回運営に関わるが)で「Keep Active」を実施している。健康スポーツの諸学問を基礎に学生が地域住民にスポーツ指導および運動負荷試験法による健康チェックを行い卒業後の職業訓練の一環として行っている。 	A		
2) 学部・学科独自の評価項目①	(独自に設定してください)	100	(独自に設定してください)					
3) 学部・学科独自の評価項目②	(独自に設定してください)	101	(独自に設定してください)					
4) 学部・学科独自の評価項目③	(独自に設定してください)	102	(独自に設定してください)					
		103						
		104						
		105						